

2023年3月期 第3四半期決算説明会資料

2023年2月1日

日本ライフライン株式会社

東証プライム市場：7575

Unauthorized copying prohibited.
Copyright © Japan Lifeline Co., Ltd. All rights reserved.



...for patient comfort.

ファクトシートはエクセル・PDFで利用可能です。
下記URLからダウンロードできます。<https://www.jll.co.jp/investors/>

3Q 10~12月 損益ハイライト*1	売上高		営業利益		四半期純利益	
		YoY		YoY		YoY
	13,009 百万円	▲870 (▲6.3%)	2,811 百万円	▲10 (▲0.4%)	869 百万円	▲1,061 (▲55.0%)
	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 保険償還価格の下落、新型コロナの感染拡大や医師の働き方改革による症例抑制、Orsiro等のPI関連製品の大幅な縮小等により、減収 ✓ 保険償還価格の下落に伴う粗利率の悪化や研究開発費等の販管費の増加があったが、在庫の廃棄損・評価損の大幅減（前年同期比）があったため、影響の大部分を吸収し、わずかに営業減益 ✓ 投資先の増資に伴う保有株式の希薄化により、特別損失として投資有価証券評価損を計上。四半期純利益は大幅な減益 					

品目別売上高 ハイライト	リズムデバイス YoY ▲9.1%		EP/アブレーション YoY ▲3.5%	
	↓	(-) 保険償還価格の引き下げ	↓	(-) HeartLight X3の供給不足
		(-) 市場競争激化		(+) AF症例数の増加(2~3%)
	外科関連 YoY +4.0%		消化器/PI*2 YoY ▲42.0%	
↑	(+) 人工血管・AFX2の好調	↓	(-) Orsiro*3の大幅減	
	(+) 新商品寄与			

*1 金額百万円未満は切捨（以降のスライドも同様）

*2 前年までインターベンションと表記しておりましたが、当期より消化器/PIと改称しております

*3 薬剤溶出型冠動脈ステント「Orsiro(オシロ)」2022/6に独占販売契約を終了し、以降は在庫販売のみ行っています

3Q累計 損益ハイライト	売上高		営業利益		四半期純利益	
	38,498 百万円	YoY ▲511 (▲1.3%)	7,931 百万円	YoY +426 (+5.7%)	4,571 百万円	YoY ▲951 (▲17.2%)
	✓ 保険償還価格の下落や新型コロナの感染拡大の影響(2Q~3Q)等があったため、 減収 ✓ 前期に一時的な原価増・費用増 (Orsiro関連の廃棄損・評価損の計上及び治験関連費用) が発生していたため、 営業増益					
品目別売上高 ハイライト	リズムデバイス YoY ▲5.9%		EP/アブレーション YoY +2.3%			
	↓ (-) 保険償還価格の引き下げ (-) 市場競争激化		→ (+) AF症例数の増加(7%程度) (-) HeartLight X3の供給不足			
	外科関連 YoY +8.7%		消化器/PI*1 YoY ▲34.6%			
	↗ (+) 人工血管・AFX2の好調 (+) 新商品寄与		↓ (-) Orsiroの大幅減			
ガイダンス	✓ 連結業績予想：変更あり (3Qの特別損失の計上等を踏まえ、通期予想を下方修正)					

*1 前年までインターベンションと表記しておりましたが、当期より消化器/PIと改称しております

第3四半期実績 連結業績概況 (3Q 10~12月)

✓ 前年同期比で減収、営業減益。四半期純利益は大幅な減益

(単位:百万円)	2023/3期			2022/3期
	10~12月	YoY	%	10~12月
売上高	13,009	▲870	▲6.3	13,879
売上総利益	7,594	+130	+1.7	7,463
構成比	58.4%			53.8%
販管費	4,782	+140	+3.0	4,641
構成比	36.8%			33.4%
営業利益	2,811	▲10	▲0.4	2,822
構成比	21.6%			20.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	869	▲1,061	▲55.0	1,931
構成比	6.7%			13.9%
自社製品比率	55.3%			52.8%

売上高 YoY ▲6.3% 減収

- (-) 新型コロナの感染拡大、医師の働き方改革による症例抑制
- (-) 保険償還価格の引き下げ
- (-) 個別品目要因 (Orsiro, HeartLight X3, ペースメーカー、RF Needle等)

営業利益 YoY ▲0.4% 減益

- (+) 在庫の廃棄損・評価損が前年同期比で大幅減
- (-) 保険償還価格の引き下げに伴う、粗利率の悪化
- (-) 研究開発費や販売関連費用の増加

四半期純利益 YoY ▲55.0% 減益

- (-) 投資先の増資に伴う保有株式の希薄化を受け投資有価証券評価損（特別損失）を計上 (1,190M)

第3四半期実績 連結業績概況（3Q累計）

✓ 前年同期比で減収、営業増益。四半期純利益は減益。

(単位:百万円)	2023/3期			2022/3期
	3Q累計	YoY	%	3Q累計
売上高	38,498	▲511	▲1.3	39,009
売上総利益	22,140	+383	+1.8	21,756
構成比	57.5%			55.8%
販管費	14,209	▲43	▲0.3	14,252
構成比	36.9%			36.5%
営業利益	7,931	+426	+5.7	7,504
構成比	20.6%			19.2%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	4,571	▲951	▲17.2	5,522
構成比	11.9%			14.2%
自社製品比率	54.4%			51.9%

売上高 YoY ▲1.3% 減収

(-) 新型コロナの感染拡大(2Q~3Q)や医師の働き方改革に伴う症例抑制 (AF症例数は前年同期比7%程度増加)

(-) 保険償還価格の引き下げ

営業利益 YoY 5.7% 増益

(+) 在庫の廃棄損・評価損が前年同期比で大幅減

(+) 前期1Qに一時的な治験関連費用 (290M)

(-) 保険償還価格の引き下げに伴う、粗利率の悪化

(-) 研究開発費や販売関連費用の増加

四半期純利益 YoY ▲17.2% 減益

(-) 前期1Qに事業譲渡益 (116M)

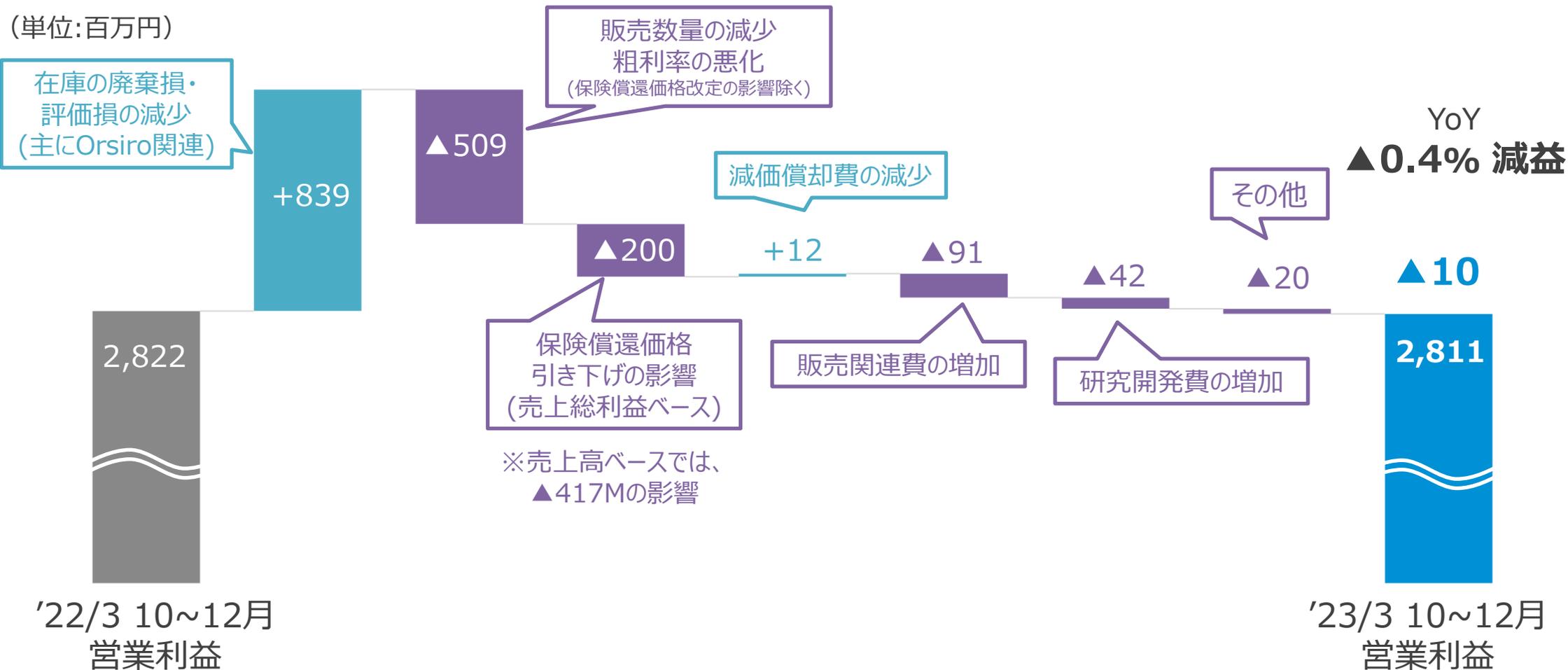
(-) 前期2Qに子会社の組織再編に伴う繰延税金資産を計上 (223M)

(-) 当期に3Qに投資有価証券評価損 (特別損失)を計上 (1,190M)

- ✓ 政策保有目的で株式を保有している商品仕入先の増資により、当社の持分が希薄化、3Qに投資有価証券評価損1,190百万円を特別損失として計上
- ✓ 特別損失の計上と直近の販売動向を踏まえ、連結業績予想を下方修正

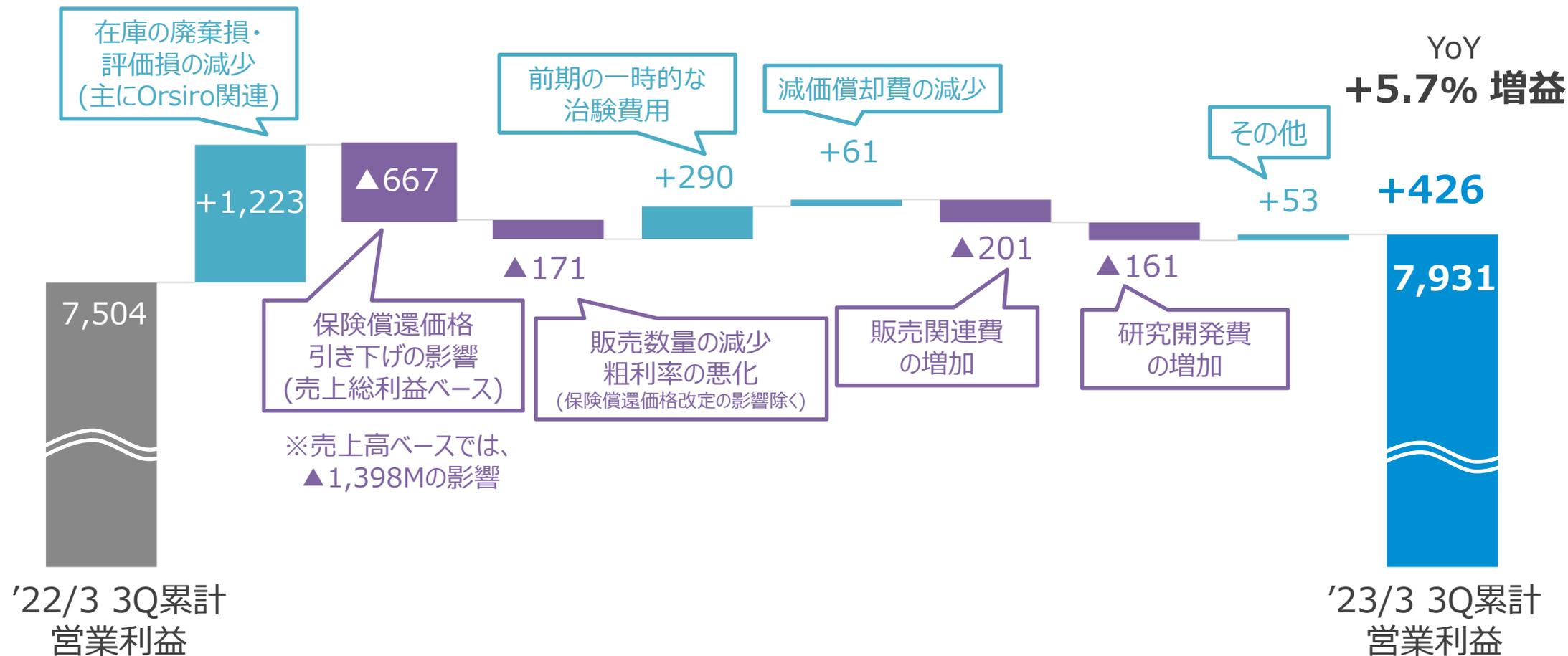
単位：百万円 (1株当たり当期純利益は円)	前回予想(A) (2022/5/11発表)	今回予想(B) (2023/2/1発表)	増減額 (B-A)	増減率 (%)	修正の理由
売上高	51,527	51,090	△436	△0.8	直近の販売動向
営業利益	10,011	10,241	+229	+2.3	費用の節減・期ずれ
経常利益	10,003	10,224	+221	+2.2	//
親会社株主に帰属する当期純利益	7,274	6,128	△1,145	△15.8	特別損失の計上
1株当たり 当期純利益	93.06	78.45			

✓ **わずかに営業減益。** 前年同期に計上した廃棄損・評価損等の影響(一時的なプラス要因)が、販売数量の減少や、保険償還価格の下落、販管費の増加等のマイナス要因を吸収



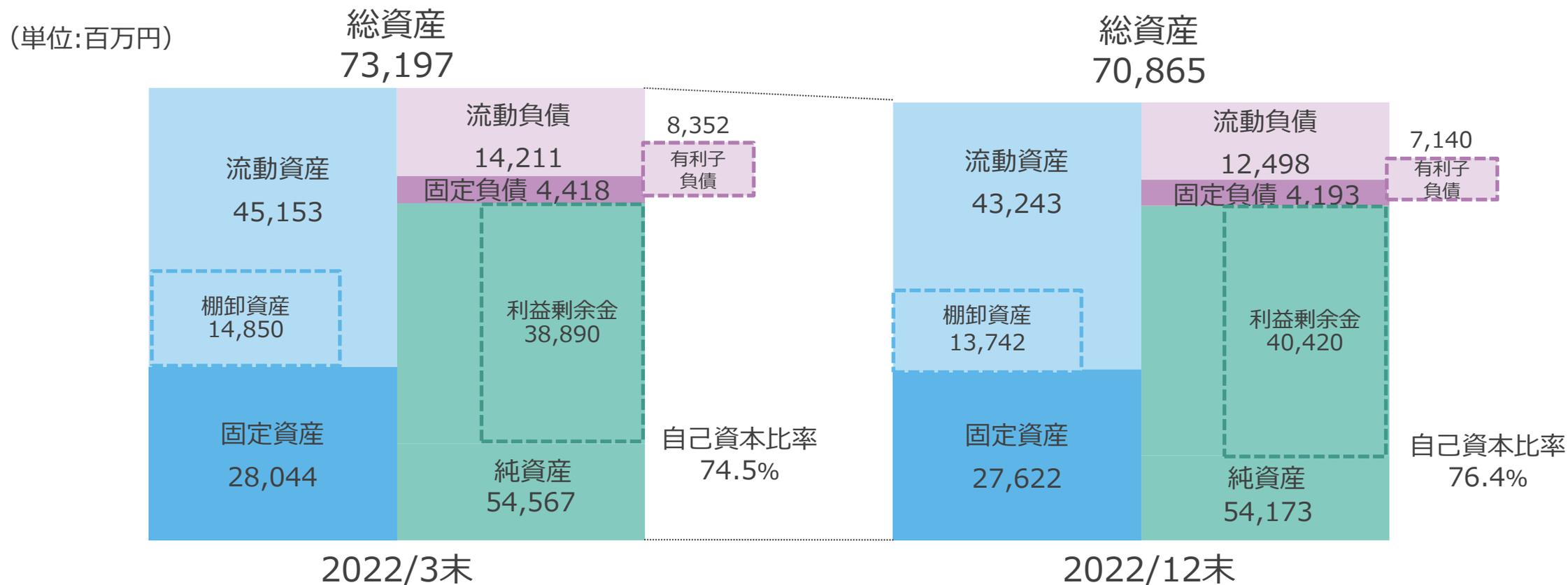
- ✓ **営業増益**。前年同期に計上した廃棄損・評価損等の影響や治験費用(一時的なプラス要因)が、保険償還価格の下落等のマイナス要因を吸収

(単位:百万円)



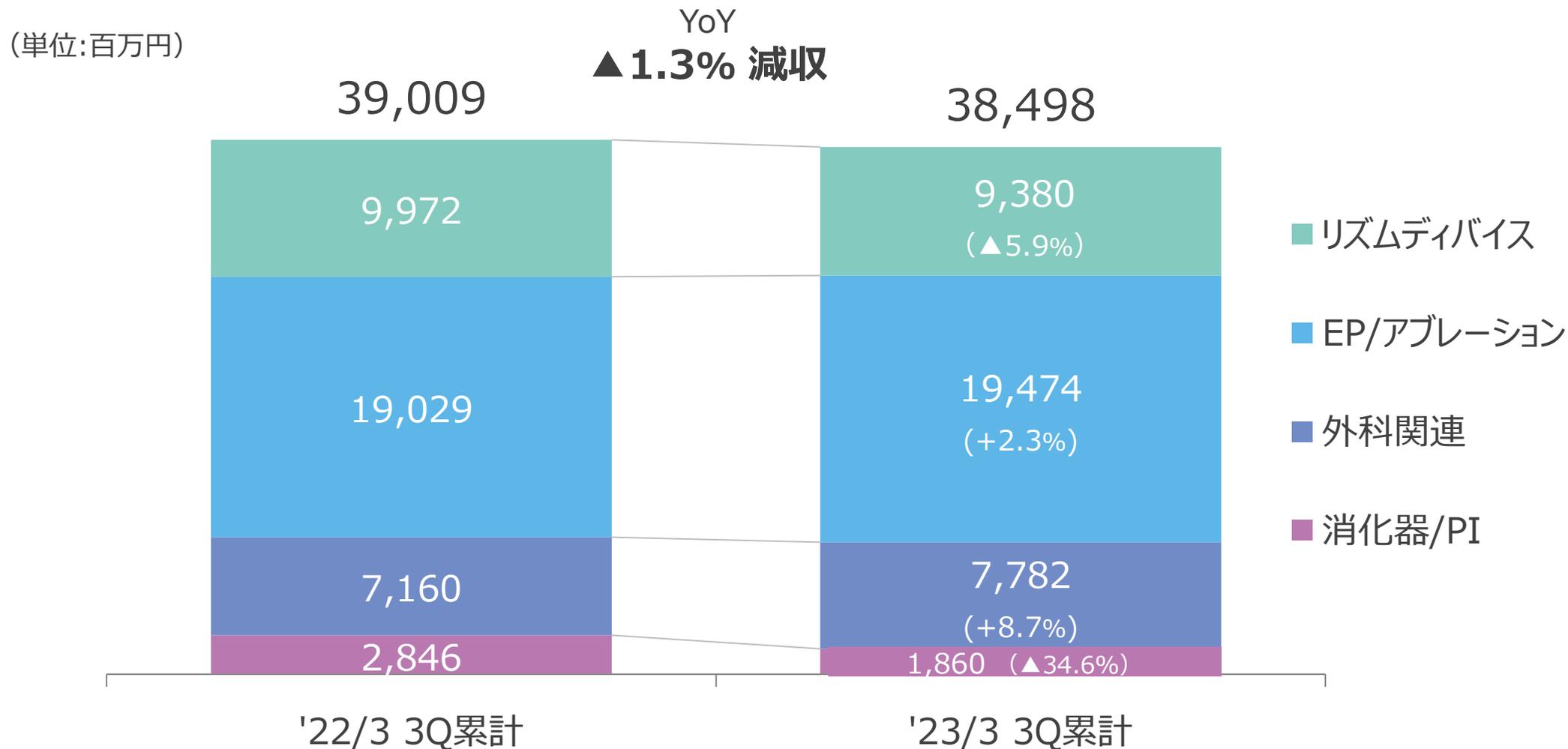
第3四半期 連結貸借対照表

- ✓ 流動資産： 法人税等や配当金の支払や自己株式の取得等により現金及び預金が減少
棚卸資産はOrsiro等の契約終了品で在庫の消化が進み減少
- ✓ 固定資産： 投資先の増資(株式の希薄化)に伴う減損等があり、減少
- ✓ 純資産： 自己株式の取得及び消却により減少



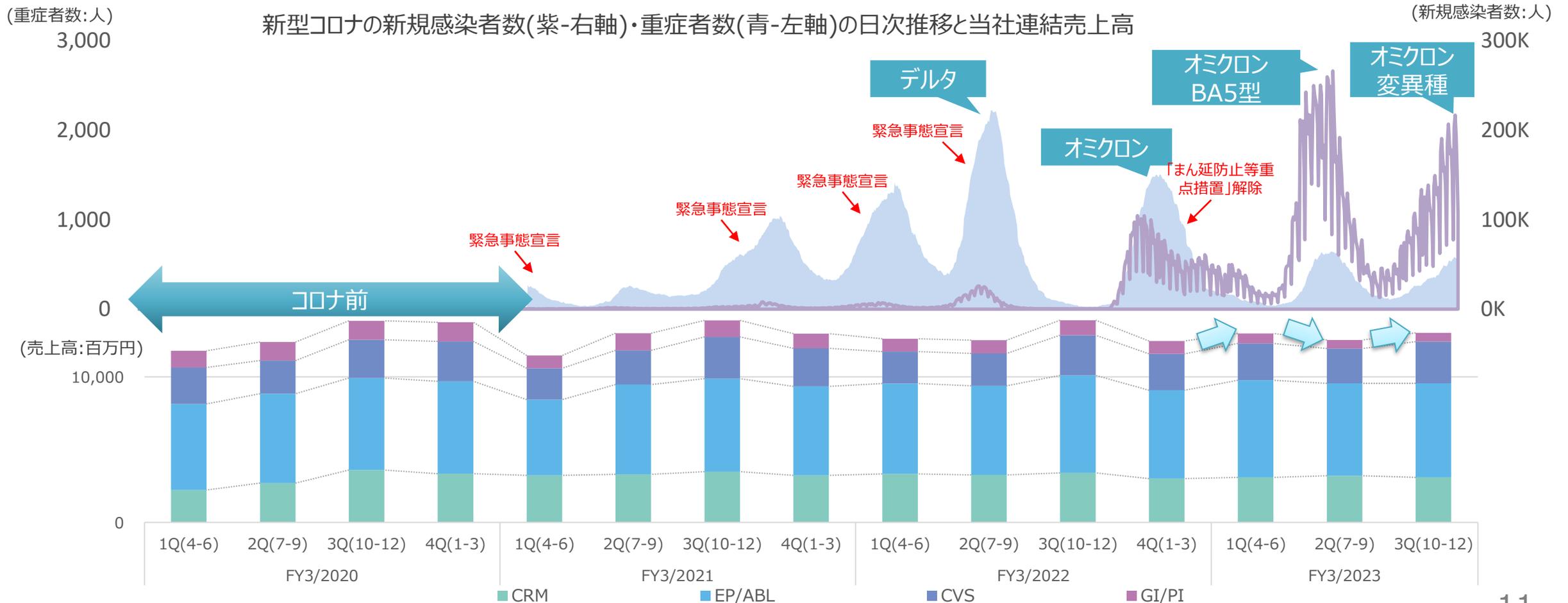
第3四半期実績 品目別売上高（3Q累計）

- ✓ 全般的に保険償還価格の引き下げ(2022年4月)の影響を受ける
- ✓ 外科関連は堅調であったが、消化器/PIやリズムデバイスが特に厳しく、減収



コロナ禍における売上高の推移

- ✓ 1Q：オミクロン型の感染が一服し、行動制限緩和。症例数の大幅増とともに売上増加
- ✓ 2Q：BA5型の感染が急拡大し、7月下旬～8月にかけて症例数が大幅減。9月には沈静化
- ✓ 3Q：10月以降、感染再拡大。ただし、**コロナが症例数を抑制する傾向には一定の歯止め**



ICD関連は堅調ながらもペースメーカー関連は引き続き苦戦

- ① 保険償還価格の引き下げや他社の新製品等の影響を受ける
- ② T-ICDは1Qに引き続き交換症例をメインに獲得。S-ICDは3Qでやや持ち直す
- ③ AEDは販売・レンタルが堅調に推移

(単位:百万円)	2023/3期			2022/3期	2023/3期			2022/3期
	3Q累計	YoY	%	3Q累計	10~12月	YoY	%	10~12月
① ペースメーカー関連	3,748	▲837	▲18.3	4,586	1,218	▲352	▲22.4	1,570
② ICD関連	5,364	+230	+4.5	5,134	1,769	+29	+1.7	1,739
③ その他*1	267	+15	+6.0	252	99	+14	+16.5	85
リズムデバイス 計	9,380	▲592	▲5.9	9,972	3,086	▲308	▲9.1	3,395

*1 AEDや舌下神経電気刺激装置を含む

新型コロナの感染拡大に加え医師の働き方改革も症例抑制要因に

- ① AF症例数は3Q累計で前年同期比7%程度増加、10~12月では2~3%増加と推定
働き方改革に取り組み始めた施設では、時間外や土曜の症例が制限されるケースあり
品目別では、BeeATはAF症例数と概ね連動、EPカテーテルやEsophastarは他社の供給問題等を背景に症例数以上に伸びる
- ② HeartLight X3は、10月以降、商品供給問題が発生し、販売を制限。新規施設開拓は大幅に遅れ
- ③ スティラブルシースは大幅な増収、競合他社の影響を受けたRF Needleの減収をカバー

(単位:百万円)	2023/3期			2022/3期
	3Q累計	YoY	%	3Q累計
① EPカテーテル	14,611	+722	+5.2	13,889
② ABLカテーテル	768	▲163	▲17.6	932
③ その他*1	4,094	▲113	▲2.7	4,208
EP/アブレーション 計	19,474	+444	+2.3	19,029

	2023/3期			2022/3期
	10~12月	YoY	%	10~12月
① EPカテーテル	4,830	▲84	▲1.7	4,915
② ABLカテーテル	272	▲103	▲27.5	375
③ その他*1	1,359	▲47	▲3.4	1,406
EP/アブレーション 計	6,462	▲234	▲3.5	6,697

*1 RF Needleやスティラブルシースを含む

堅調な人工血管関連に加え、脳血管領域の市場開拓が進む

- ① 人工血管、オープンスtentグラフトは引き続き堅調な推移
腹部用stentグラフトは、シナジーのある新商品の導入が奏功し、堅調に推移
- ② 新商品の塞栓用コイルは、新規施設数を順調に拡大
事業譲渡した血液浄化関連の売上が前期の3Q累計で231Mあり（10～12月では62M）

(単位:百万円)	2023/3期			2022/3期
	3Q累計	YoY	%	3Q累計
① 人工血管関連	7,608	+713	+10.4	6,895
② その他*1	173	▲91	▲34.5	265
外科関連計	7,782	+622	+8.7	7,160

2023/3期			2022/3期
10～12月	YoY	%	10～12月
2,771	+99	+3.7	2,672
88	+9	+12.1	78
2,860	+108	+4.0	2,751

*1 血液浄化関連、人工肺関連、生体弁、塞栓用コイルを含む



PI(インターベンション)から消化器領域へ事業構造の転換を進める

- ① 消化器関連は、大腸用ステント、胃・十二指腸用ステント、肝癌ニードルが好調に推移。
胆膵領域は、一部の新製品で改善を要する点があり、課題解決に取り組む。
胆管チューブステントは、発売後、好調に推移
- ② PI関連は事業規模の縮小に伴い、大幅な減収が続く

(単位:百万円)	2023/3期			2022/3期
	3Q累計	YoY	%	3Q累計
① 消化器関連	454	+142	+45.8	311
② PI関連*1	1,405	▲1,129	▲44.5	2,534
消化器/PI 計	1,860	▲986	▲34.6	2,846

2023/3期			2022/3期
10~12月	YoY	%	10~12月
169	+44	+36.0	124
431	▲480	▲52.7	911
600	▲435	▲42.0	1,035

*1 薬剤溶出型冠動脈ステント「Orsiro」のほか、ガイドワイヤー、バルーンカテーテル、血管内圧測定用センサ付ガイドワイヤー、心房中隔欠損閉鎖器具などを含む

(参考)事業環境 現時点の見通し

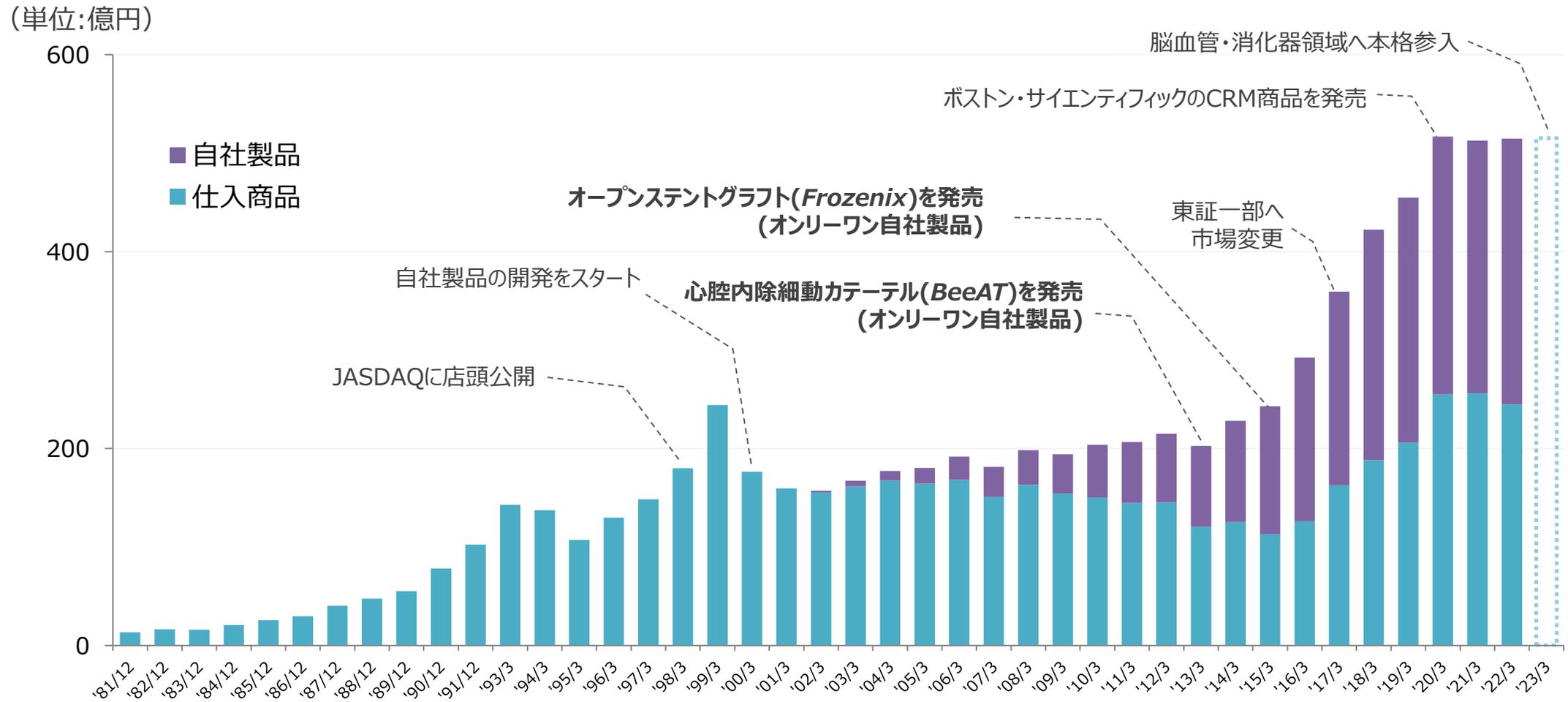
事業領域	品目	2023/3 3Q (実績)		2023/3 4Q (予想)		2024/3 1Q (予想)	
リズムデバイス	ペースメーカー関連		他社新製品影響、 価格競争		他社新製品影響、 価格競争		他社新製品影響、 価格競争
	ICD関連		交換症例の増加・ 獲得		交換症例の増加・ 獲得		交換症例の増加・ 獲得
EP/アブレーション	EPカテーテル		新型コロナや医師の 働き方改革の影響		新型コロナや医師の 働き方改革の影響		新型コロナや医師の 働き方改革の影響
	ABLカテーテル		商品供給不安、 拡販遅れ		商品供給不安、 拡販遅れ		商品供給不安は解 消へ
	その他		ステイラブルシースは好 調維持		ステイラブルシースは好 調維持		RF Needleの独占 販売終了(23/3末)
外科関連	人工血管関連		堅調推移。季節性 による増加		堅調推移。季節性 による増加		堅調推移。季節性 の増加剥落
	その他(脳血管)		施設数の拡大		施設数の拡大		施設数の拡大 新商品の導入
消化器/PI	消化管関連		堅調推移		堅調推移		新モデル効果
	胆膵関連	—	初期臨床課題あり (胆道鏡)		一部製品のみ拡販		一部製品のみ拡販
	PI関連		事業規模縮小		事業規模縮小		多くの製品の販売を 終了

矢印は前QからのQoQベースでの事業環境のトレンド変化を表す。(上向き、横ばい、下向きの3段階で評価)

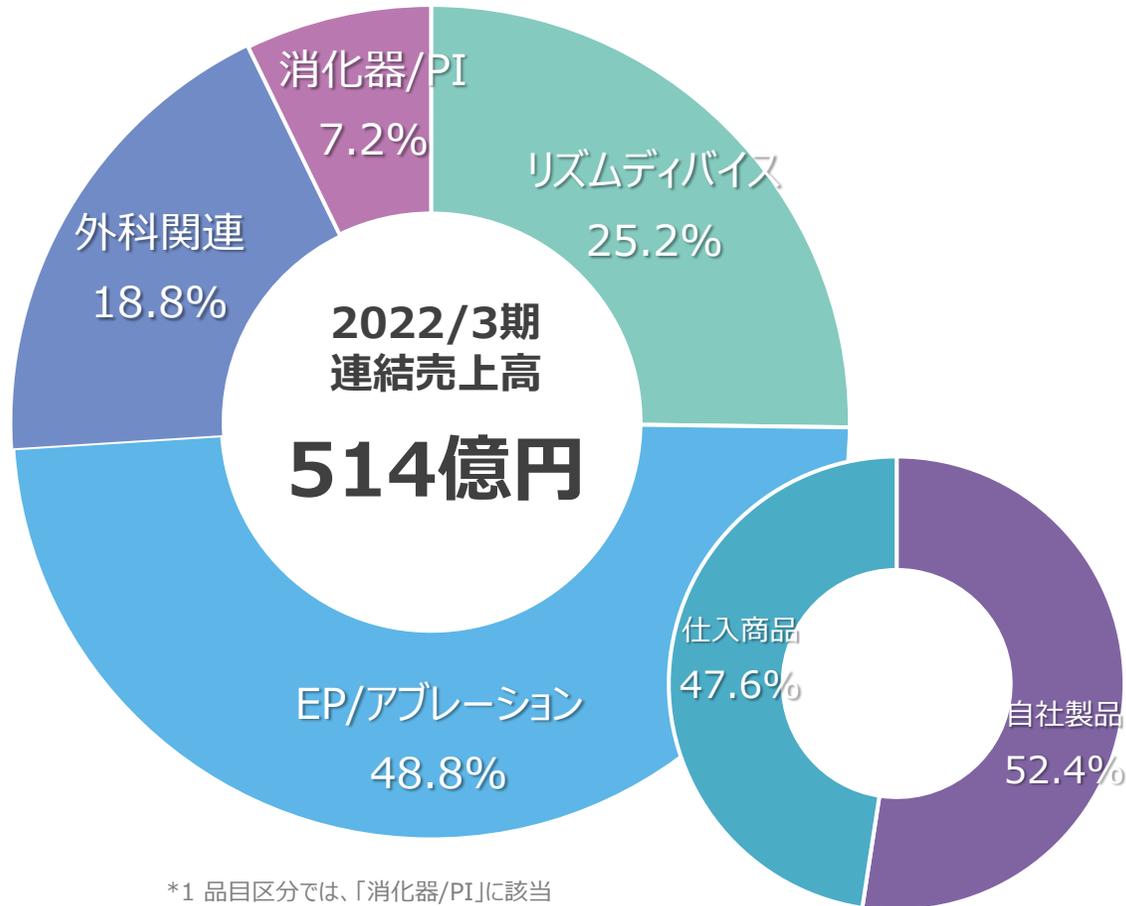
Appendix 会社概要等

商号	日本ライフライン株式会社
代表者	代表取締役社長 鈴木啓介
本社	東京都品川区東品川2-2-20 天王洲オーシャンスクエア
設立	1981年2月6日
上場市場	東京証券取引所 プライム市場
証券コード	7575
事業内容	医療用機器の製造、販売、輸出および輸入販売
資本金	2,115百万円
決算期	3月31日
従業員数	連結1,205名/単体981名（2022年9月30日 現在）
事業所	営業拠点48ヶ所、羽田ロジスティックスセンター、関西ロジスティックスセンター、研究開発統括部、戸田ファクトリー、小山ファクトリー、市原ファクトリー、天王洲ACCADEMIA（研修センター）（2022年9月30日 現在）
連結子会社	SYNEXMED (HONGKONG) LTD.、心宜医療器械（深圳）有限公司 JLL MALAYSIA SDN. BHD.

✓ 複数のオンリーワン自社製品の発売で、過去10年で売上高CAGR8% (営業利益CAGRは24%)を達成



- ✓ メインの疾患領域は**心臓血管領域**であり、4つの品目区分に分類
- ✓ 今後は、**消化器領域***1と**脳血管領域***2にも本格参入し、疾患領域を強化・拡充



リズムデバイス	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 不整脈を治療する体内植込み型の医療機器 ✓ 自社比率0% (BSJ社*3と長期独占販売契約)
EP/アブレーション	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 不整脈の検査や治療をする使い捨ての細い管状(カテーテル)の医療機器 ✓ 自社比率80%
外科関連	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 本来の機能が失われた血管を人工の器官に置き換え、治療するための医療機器 ✓ 自社比率60% ✓ 脳血管領域に新規参入(仕入商品)
消化器/PI*4	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 肝臓や大腸などの消化器疾患を治療する医療機器 ✓ 自社比率40%*5 ✓ 胆膵内視鏡分野に新規参入(自社製品)

*1 品目区分では、「消化器/PI」に該当

*2 品目区分では、「外科関連」に該当

*3 Boston Scientific Japan社 (Boston Scientific Corporation (米)の日本子会社)

*4 PI = Percutaneous Intervention (経皮的インターベンション) 心筋梗塞などの虚血性心疾患を、カテーテルを用いて低侵襲に治療する方法。ガイドワイヤー、バルーンカテーテル、薬剤溶出型冠動脈ステントなどを含む

*5 PIは仕入商品をよく含むため、消化器/PI全体では自社比率40%。消化器のみでは自社比率100%。PIは今後縮小の傾向

✓ 不整脈(心臓の拍動が遅くなる、または早くなる疾患)を治療する体内植込み型の医療機器

ペースメーカー関連

心臓ペースメーカー

商品名 : Accolade (Boston Scientific社製)



心臓の拍動が遅くなる不整脈(徐脈)に対して、人工的に電気刺激を与えることで拍動を保ちます。

保険償還価格*1

シングルチャンバ 454,000円
デュアルチャンバ 593,000円

CRT-P (両心室心臓ペースメーカー)

商品名 : Visionist X4 (Boston Scientific社製)



重症心不全に対して、心臓の左右両方の心室に電気刺激を与える、心臓の同期不全を整えポンプ機能を改善します。

保険償還価格

1,290,000円

I C D 関連

T-ICD (経静脈植込型除細動器)

商品名 : Resonate (Boston Scientific社製)



心臓の拍動が早まる不整脈(頻脈)のうち、致死性の不整脈である心室細動の発生を検知し、電気ショックを与え、拍動を正常な状態に戻します。

保険償還価格

シングルチャンバ 2,730,000円
デュアルチャンバ 2,820,000円

S-ICD (完全皮下植込型除細動器)

商品名 : Emblem MRI (Boston Scientific社製)



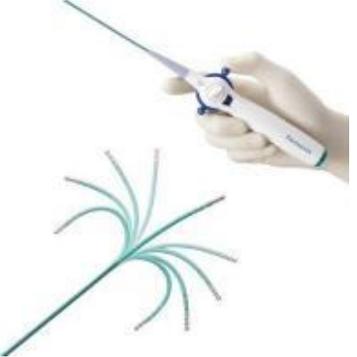
T-ICDは静脈を介し心臓内にリードを留置しますが、S-ICDは全ての機器を皮下に植込み血管内や心臓へ異物留置がありません。

保険償還価格

3,120,000円

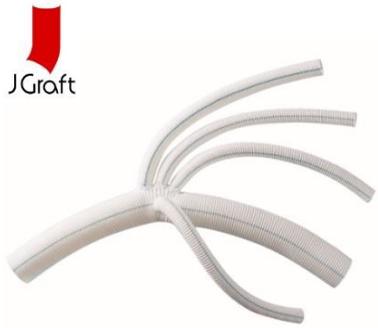
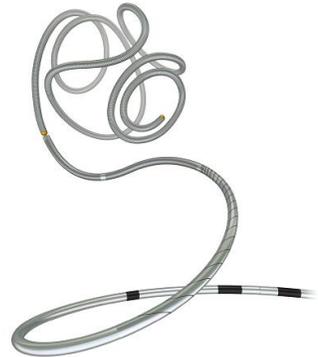
*1 保険償還価格は2022年4月1日現在

✓ 不整脈の検査や治療を行う、ディスプレイの電極付カテーテルなどの医療機器

E P カテーテル関連		A B L カテーテル関連		その他
<p>EP（電気生理用）カテーテル 製品名：EP Star, Libero, Snake, Esophastar（自社製品）</p>  <p>不整脈の診断や治療方法の適応を判断する検査に用います。カテーテル先端の電極で、心臓内電位を測定したり、不整脈を誘発させて原因を特定します。</p> <p>保険償還価格*1 標準型（電極数3~5） 46,800円 温度センサ付（エソファスター）85,400円</p>	<p>心腔内除細動カテーテル 製品名：BeeAT（自社製品）</p>  <p>アブレーション治療時に発生する心房細動に対し、心腔内で除細動を行うことで、低侵襲に心房細動を停止させます。またEPカテーテルとしての診断機能も合わせて持っています。</p> <p>保険償還価格 214,000円</p>	<p>アブレーションカテーテル 製品名：Ablaze（自社製品）</p>  <p>頻脈の原因となる心臓内の異常な電気刺激の経路を、カテーテル先端部の電極から流す高周波電流で焼き切ることで治療します。</p> <p>保険償還価格 通常型 117,000円</p>	<p>内視鏡レーザーアブレーションカテーテル 商品名：HeartLight X3（Cardio Focus社製）</p>  <p>バルーン内部からレーザーを照射し、頻脈の原因となる部位を焼き切り治療します。カテーテル内部の内視鏡で、正確な留置・焼灼が可能です。</p> <p>保険償還価格 505,000円</p>	<p>高周波心房中隔穿刺針 商品名：RF Needle（Baylis Medical社製）</p>  <p>アブレーション治療などの際に、左右の心房の間にある壁（心房中隔）に、カテーテルを通すための穴を高周波により開ける際に使用します。</p> <p>保険償還価格 54,100円</p>

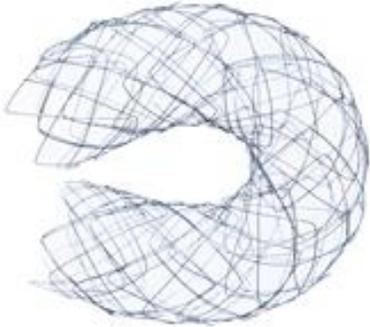
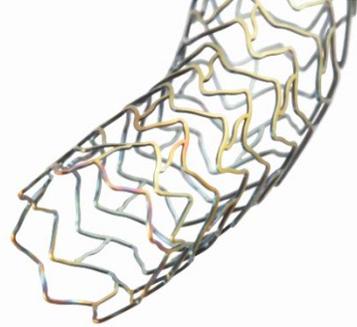
*1 保険償還価格は2022年4月1日現在

✓ 本来の機能が失われた血管を人工の器官に置き換え、治療するための医療機器

人工血管関連			その他
<p>人工血管 製品名：J Graft（自社製品）</p>  <p>開胸手術により動脈瘤などで痛んだ血管を切り取り、人工血管に置き換え治療します。</p> <p>保険償還価格*1 分岐なし（ストレート） 117,000円 1分岐（T字） 179,000円 2分岐以上（4分岐） 245,000円</p>	<p>(腹部用)ステントグラフト 商品名：AFX2, Alto（Endologix社製）</p>  <p>外科手術を行うことなく、足の付け根の血管からカテーテルを通じて、治療部位に留置し大動脈瘤を治療します。</p> <p>保険償還価格 標準型（AFX） 1,320,000円 ポリマー充填型（Alto） 1,430,000円</p>	<p>オープンステントグラフト 製品名：Frozenix（自社製品）</p>  <p>大動脈に挿入し拡張することにより血管に固定します。片側の吻合が不要なため、開胸手術を行うものの低侵襲に大動脈瘤の治療を行います。</p> <p>保険償還価格 1,110,000円</p>	<p>塞栓用コイル 商品名：Avenir（Wallaby Medical社製）</p>  <p>脳動脈瘤内に塞栓用コイルを留置することで血液の流入を遮断し、瘤の破裂（くも膜下出血）を防ぎます。</p> <p>保険償還価格 95,600円</p>

*1 保険償還価格は2022年4月1日現在

- ✓ 消化器：肝臓や大腸などの消化器疾患を治療する医療機器
- ✓ PI関連：冠動脈の詰まりによって発生する心筋梗塞などの疾患を治療する医療機器

消化器関連		その他	
<p>大腸用ステント 製品名：Jentily（自社製品）</p>  <p>癌により閉塞した大腸を押し広げるために用います。細いガイドワイヤーで閉塞部を通過させた後、これに沿ってステントを展開します。</p> <p>保険償還価格*1 216,000円</p>	<p>肝癌治療用ラジオ波焼灼電極針 製品名：arfa（自社製品）</p>  <p>超音波(エコー)やCTで観察しながら針状の電極を経皮的に肝癌の病変組織へ挿入し、電極周囲にラジオ波による熱を発生させ病変を焼灼し治療します。</p> <p>保険償還価格 なし。保険区分A2(特定包括)で特定の診療報酬項目において包括的に評価される。</p>	<p>胆管チューブステント 製品名：Regulus（自社製品）</p>  <p>胆管が胆石や腫瘍などの圧迫によって狭くなった箇所にステントを留置し広げることで、胆汁の流れを改善して治療します。</p> <p>保険償還価格 45,600円</p>	<p>薬剤溶出型冠動脈ステント 商品名：Orsiro (Biotronik社製)</p>  <p>血管の詰まった部分を風船(バルーン)で拡張させた後に留置し、再び詰まるのを防ぎます。また塗布された薬剤も再発防止に効果があります。</p> <p>保険償還価格 136,000円</p>

*1 保険償還価格は2022年4月1日現在

✓ 国内4拠点、海外2拠点の体制でメーカー機能を支える

研究開発

研究開発統括部 (埼玉県戸田市)

Medical Technology Park North Square



2018/4~

中核工場

戸田ファクトリー (埼玉県戸田市)

Medical Technology Park South Square



2012/1~

量産・滅菌工場

小山ファクトリー (栃木県小山市)



2014/10~

血管製品の開発・生産

市原ファクトリー (千葉県市原市)



2011/1~

海外工場 ①

深圳工場 (中国深圳市)

JLL Shenzhen Co., Ltd.



2010/10~

海外工場 ②

マレーシア工場 (マレーシアペナン州)

JLL Malaysia Sdn.Bhd.



2020/6~

ご注意事項

本資料の記載内容のうち、歴史的事実でない事項は、当社の将来に関する見通し及び計画に基づいた将来予測です。特に、商品や製品の導入に係る、治験および薬事承認に係る事項、また発売時期につきましては、過去の経験や入手可能な情報から得られた当社の予測であります。実際の業績は、さまざまなリスクや不確実な要因の影響により、本資料記載の見通しと異なる可能性がありますので、これらの見通しに過度に依存されないようお願いいたします。

本資料に関するお問い合わせ先

日本ライフライン株式会社
経営企画部

TEL:03-6711-5214

E-Mail:ir@jll.co.jp

URL:<https://www.jll.co.jp>